

志賀METHODに学べ！

第5回英語指導力向上対策プロジェクト会議

H26.07.17. 竹田市立緑ヶ丘中学校

竹田市立緑ヶ丘中学校の志賀喜久美指導教諭に授業公開をしていただきました。
示唆に富む学習活動が展開され、これからの本県英語科授業改善の方向性を確認することができました。

① 基礎的・基本的な事項を確実に定着させる指導の工夫

○English Bag の活用・・・英語の授業で用いる学習用具をカバンの中にまとめさせました→忘れ物が激減！

バッグの中身は——— ・教科書



- ・ A ノート（板書を写したりする整理用ノート）
- ・ B ノート（単語や文を書く練習用ノート）
- ・ 市販のワークブック
- ・ 辞書（なんと荻町では、小学校卒業時に記念品として全員に配布！）
- ・ 英語ファイル（プリントなどを整理します。）

★「思いっきりかわいいバッグを持っておいで」と指示したそうです。

生徒たちもお気に入りのバッグに、持ち物を入れることができ大満足！

○教科書の暗唱・・・なにはともあれ、お手本を頭の中に入れることが大切です。

守・破・離の「守」がなければオリジナリティーは出せません。

○動詞カードの活用・・・32枚の動詞カードを生徒一人ひとりが持っています。表には

play the piano **watch TV** など目的語などを伴った英語が書いてあります。裏には、その日本語訳。毎時間ステップアップしながら取り組むことで、徐々に生徒の身に付いていきます。

○キクミンドリル・・・先生ご自身の名前からとった自己顕示欲の強いドリル名。

「あら、違うわよ。キクミンは、“聴く” ってことよ」とは本人の弁。

このドリルは、ある程度の長さの初めての会話文を聴きながら、メモを取ります。そして、その内容をペアで確認し合います。この活動は、ディクテーションではなく、メモをもとにまとめた英文の概要をつかむトレーニングなのです。

やがてはそれを英語で復元する「ディクトグロス」をめざしています。

*ディクトグロス・・・短いパラグラフや会話文を教師が読み、生徒がペアやグループでそれ

を再現する活動です。一人の生徒では複雑で再現できないような英文でも、何名かで協力することによってそれが可能になります。単なる書き取り (dictation) とは違って、このときの生徒同士の話し合いの内容は、自然と英語の文法に焦点が置かれます。

チェック★リズムのある学習活動

基礎・基本の定着のためのこれらの活動は、ポンポン、ポンポン、リズムよく進んでいきます。指導者側の指示は、最小限。生徒の活動の時間が保障されています。毎時間取り組んでいるからこそできることであるし、だからこそ定着も図れるのです。

チェック★英語の勉強に向かう学習環境

英語教室の中には、黒板、白板、電子黒板があり、それぞれを目的に応じて利用することで生徒に短い時間の中で、たくさんの言語材料を提示できる工夫がされています。今回の授業では、How many ~s? の文をターゲットに学習しましたが、同時に How much ~? や Which ~? など既習の疑問詞も掲示してありました。

② 単元目標を達成するための言語活動の充実

○生徒の興味・関心、ねらいに応じた題材の設定・・・

この時間は、荻町の特産品であるトマトを使った言語活動を設定されていました。生徒を5人ずつ3グループに分けて、それぞれのグループがトマトを使った製品について相手に説明し、意見を聞き、それをグループに持ち帰りグループ内で還流するという活動です。

以下のような対話がなされました。

S : 生徒 G : 授業参観者 (英語の教員)

S: Hello. My name is (). Nice to meet you.

G: Nice to meet you too.

What do you have in your bag?

S: I have two pictures. These are the pictures. Look at this picture.

G: What is this?

S: It is a ().

G: How many tomatoes do they use?

S: They use () tomatoes.

G: How much is this?

S: It is () yen.

G: I see.

S: Look at this picture. It is a ().

G: How many tomatoes do they use for this tomato jam?

S: They use () tomatoes.

G: Really? How much is this?

S: It is () yen.

G: I see.

S: Which do you like better?

G: I like ().

S: Please try it later.

G: Thank you.

S: You're welcome.

○4技能を総合的に育成する指導・・・

この活動では、生徒は、調べたことを「話し」、情報を「聞き」出し、結果を報告し合い、まとめをノートに「書き」ます。4技能のうち3技能を使った活動です。

さらに大切なことは、生徒と参観者の間に

＊情報を伝える／受け取る必然性がある

＊情報を伝える／受け取る目的が明確である

＊情報を受け取るだけに終わらず、その後の活用がある

ことです。

○また、この日は20名を超える英語科の教員が参観していたので、活動を行う上で恵まれた環境にあったといえます。しかし、同様の活動は生徒同士でももちろん可能です。

チェック★学習者中心の活動で、生徒が英語にふれる機会を充実

「授業は、All in English で」などと言われますが、これは、教師側の発話でなく、生徒の発話が All in English になることが本来の目標です。志賀先生の授業では、テンポ良く英語が飛び交います。生徒たちは、英語を使うことが本当に楽しそうです。それは、たぶん、志賀先生自身の「英語大好き。子どもたちにも好きになってもらいたい」という気持ちから、生徒の中にも育っているものだと感じられました。

③ 単元目標に向けて、一時間一時間を積み上げていく見通しをもった計画

○付けたい力を明確にした単元目標を設定し、その目標達成のために指導内容や教材の提示を工夫していく。そのためには・・・

・授業のねらいの焦点化・明確化

(ねらいを絞って、はっきりさせて、それを生徒に伝える)

・ねらいに対応した評価規準の設定

(「この力を付けさせたいのだから、この活動でしっかり見取る」と指導者が意

識すること)

- ・適切な方法による評価

(付けたい力をはかる指標の設定、方法は適切か?)

○単元を見通した指導計画があり、学年を見通した指導計画があり、3年間を見通した指導計画がある。教師側だけでなく生徒にも見通しをもたせることで、生徒自身にも「～ができるようになりたい」「～ができるようになることを目指す」といった自覚が芽生えます。そこから「自律的学習者」としての態度や姿勢が、少しずつ身に付いてくると思うのです。

志賀先生が示してくださった道筋を、私たちはしっかり意識していかなばなりません。ぜひ、明日からの実践に、研鑽に活かしてください！

